

理研シンポジウム: チュートリアル研究会  
**高エネルギー重イオン衝突の物理: 基礎・最先端・課題・展望**

2019年8月19日~21日・理化学研究所(和光地区)大河内記念ホール

**8月19日(月)**

世話人より (9:20 - 9:30)

全体レビュー (9:30 - 12:00)

9:30 - 10:30 高エネルギー重イオン衝突の物理 平野哲文(上智大学)  
10:30 - 11:15 実験サマリー 志垣賢太(広島大学・理研)  
11:15 - 12:00 理論サマリー 日高義将(理研)

昼食休憩 (12:00 - 13:20)

**基礎1 (13:20 - 14:20)**

13:20 - 13:50 ジオメトリ・グラウバー模型 門内晶彦(KEK)  
13:50 - 14:20 フリーズアウト 浅川正之(大阪大学・理研)

写真撮影・休憩 (14:20 - 14:45)

**基礎2 (14:45 - 16:30)**

14:45 - 15:30 流体・フロー 村瀬功一(上智大学)  
15:30 - 16:00 ハドロン化 八野哲(仏サクレー)  
16:00 - 16:30 磁場 広野雄士(APCTP)

ポスターフラッシュトーク (16:30 - 17:00)

ポスターセッション・意見交換会 (17:15 - 19:30)

**8月20日(火)**

**基礎3 (9:00 - 10:30)**

9:00 - 9:30 格子QCD 筒井翔一郎(理研)  
9:30 - 10:00 光子 山口頼人(広島大学)  
10:00 - 10:30 レプトン・カイラル対称性・ハドロン媒質効果  
成木恵(京都大学・理研)

休憩 (10:30 - 11:00)

## 基礎 4 (11:00 - 12:30)

11:00 - 11:30 ハードプローブ

坂井真吾 (筑波大学)

11:30 - 12:00 重クォーク

林真一 (東大 CNS)

12:00 - 12:30 クォークonium

赤松幸尚 (大阪大学)

昼食休憩 (12:30 - 14:00)

## 応用 1 (14:00 - 16:00)

14:00 - 14:40 初期・カラーガラス凝縮

藤井宏次 (東京大学)

14:40 - 15:20 小さい系・フローの最先端

江角晋一 (筑波大学)

15:20 - 16:00 ジェットの最先端

中條達也 (筑波大学)

休憩 (16:00 - 16:30)

## 応用 2 (16:30 - 17:50)

16:30 - 17:10 カイラル輸送現象

山本直希 (慶應大学)

17:10 - 17:50 偏極

新井田貴文 (筑波大学)

## 8月21日(水)

## 応用 3 (9:00 - 10:20)

9:00 - 9:40 高密度物質の相構造・ゆらぎ

北沢正清 (大阪大学)

9:40 - 10:20 ビームエネルギー走査の最新結果

野中俊宏 (中国 CCNU)

休憩 (10:20 - 10:50)

## 応用 4 (10:50 - 12:10)

10:50 - 11:30 ハドロン・ストレンジネス物理

大西明 (京都大学)

11:30 - 12:10 中性子星

古城徹 (中国 CCNU)

昼食休憩 (12:10 - 13:30)

## 応用 5・将来展望 (13:30 - 15:40)

13:30 - 14:10 相対論的流体力学の理論的進展

本郷優 (慶應大学・理研)

14:10 - 15:00 将来展望

郡司卓 (東大 CNS)

15:00 - 15:30 議論

15:30 - 15:40 世話人より

※このシンポジウムは、理研シンポジウムの一環として行われています

## ポスターフラッシュトーク

8月19日 16:30 - 17:00 (一人二分間)

1. カラー自由度を取り入れたクォークコニウムの時間発展の記述  
梶本詩織 (大阪大学)
2. ALICE 実験前方ミュオン粒子飛跡検出器と既存測定系とのマッチング効率の定量評価  
釜野楓 (奈良女子大学)
3. コア-コロナ描像に基づく動的 QGP 流体生成モデルによるストレンジネス増大  
金久保優花 (上智大学)
4. クォーク・グルーオン・プラズマ中の重いクォークコニウムの量子散逸過程  
三浦崇寛 (大阪大学)
5. 小さい衝突系における高温クォーク物質の性質  
中村幸輝 (名古屋大学)
6. RHIC-STAR 実験における臨界点探索  
野中俊宏 (中国 C C N U)
7. ALICE 実験におけるミュオン対偏向を用いた高強度磁場検出に向けた背景効果の評価  
大佐古拓海 (広島大学)
8. 散乱によるカイラリティ変化の寄与を含むカイラル運動論の構築  
大塚高弘 (大阪大学)
9. ALICE 実験前方ミュオン粒子飛跡検出器の導入に向けた制御系試験機の構築  
大矢元海 (広島大学)
10. 高エネルギー重イオン衝突反応における流体揺らぎと縦初期揺らぎの効果  
坂井あづみ (上智大学)
11. Pseudo-rapidity dependence of  $v_{\{2\}}$  in small system with ALICE  
関口裕子 (東大 CNS)
12. ALICE 実験 Run 3 におけるミュオン対を用いたオープンチャームの生成断面積測定可能性評価  
山川皓生 (広島大学)
13. 幅広い衝突エネルギーを想定した臨界点を含む状態方程式  
吉田悠人 (上智大学)